



学級活動の中での地図活用

奈良教育大学教授 岩本廣美

特別活動の一翼を担う学級活動は、地図活用との関連を想定しにくいと考えられがちですが、工夫次第で、さまざまな活用場面をつくることができます。本稿では、地図を活用した学級活動のアイデアを3例紹介します。

○朝の会でのニュース発表で"Where"

朝の会で、学級の子どもが交代しながら、あるいは「ニュース係」の子どもが、前日の新聞から記事を選び、朝の会で発表するという活動があります。高学年向けの活動です。

この活動を発展させ、ニュースに関わる5W1Hのひとつ"Where"に焦点化した活動ができます。発表した子どもに、ニュースで取りあげた場所に注目させ、『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）の世界および日本に関する基本図や拡大図を使

って位置を確認させる活動をするとう効果的です。図1の例では、兵庫県宝塚市の位置を地図で調べることになります。

教室の壁面には、日本と世界の白地図を、子どもの手の届くところにあらかじめ掲示しておき、地名の確認ができたなら、当該の子どもにシールまたは付箋を貼り付けてもらうとよいでしょう。一定期間この活動に取り組めば、地図上にシールまたは付箋が多数貼られ、意味のある分布図になる可能性も出てきます。なお、世界と日本の白地図を、「学習係」の子どもが作成すれば、係の子どもは地図にふれる機会がさらに広がります。

○学校図書館の活用で物語の舞台調べ

学校図書館の利用に関わって、地図帳を活用しながら学級の図書係の子どもが活躍する活動があります。世界の物語シリーズに注目させ、それぞれの物語の舞台を地図帳で調べるという活動です。調べた結果は、世界の白地図に、先のニュースのようにシールなどを貼り付けて表現することができます。

地図帳の「世界の主題図や拡大図」には、世界のおもな物語の舞台がイラストで示されていますので、子どもは、地図上でこれらを発見する喜びを味わうこともできます。たとえば、西ヨーロッパから北ヨーロッパにかけての範囲（図2）では、「ハリーポッター」、「フランダースの犬」、「ブレーメンの音楽隊」の舞台を見つけることができます。

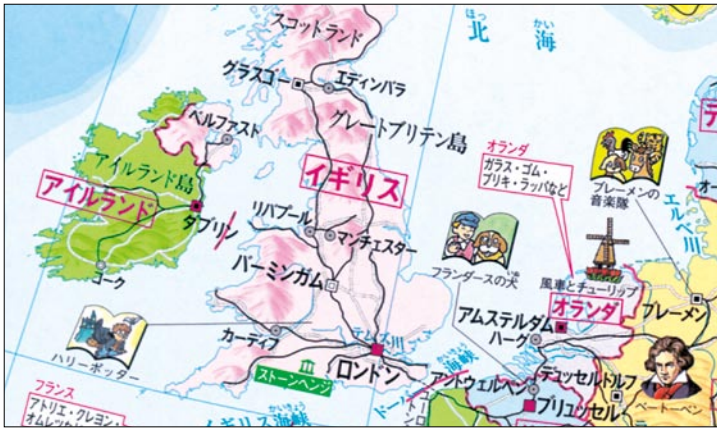


図2 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.59

本のジャンルは、物語に限らず、伝記、ドキュメントなどさまざまなものを取りあげることができます。また、これらの活動を図書係ではなく、学級の子どもで分担して行うことももちろんよいと思います。

○「安全マップ」づくり

安全は、学級活動にとってキーワードのひとつであり、「安全マップ」づくりを学級活動に位置づけることができます。

身近な地域で、テーマを決めて調べ、結果を地図にまとめる、という地図づくりの手順は、地図帳p.12「調べたことを地図にまとめよう 地図を使ったまとめかた」(図3)を参考にすることで、イメージを鮮明に持つことができます。社会科や総合的な学習の時間に位置づけることはできますが、テーマによっては、学級活動に位置づけることもでき、

その一例が「安全マップ」づくりです。

子どもが作成した「安全マップ」のモデルとして、埼玉県富士見市の子どもが手がけた実例があります(本冊子表紙)。この地図は、先にお兄さんが作成した「安全マップ」を基礎に、弟さんが3年後に夏休みの自由研究として改めて調査を行い、

お兄さんの作品の上に透明なビニールシートに重ねて結果を表したものです。図4で示した部分を見ると、3年前の情報を表している



図4 安全マップの一部

シールや表示の上に新たな情報が加わっていることが読み取れます。

「安全マップ」の実例は1人で作成したのですが、学級で分担・協力して1枚の地図を作成する方法もあります。

* * *

本稿で紹介したほかにもさまざまなアイデアがあるはずです。各学校現場で、工夫しチャレンジしていただければ幸いです。

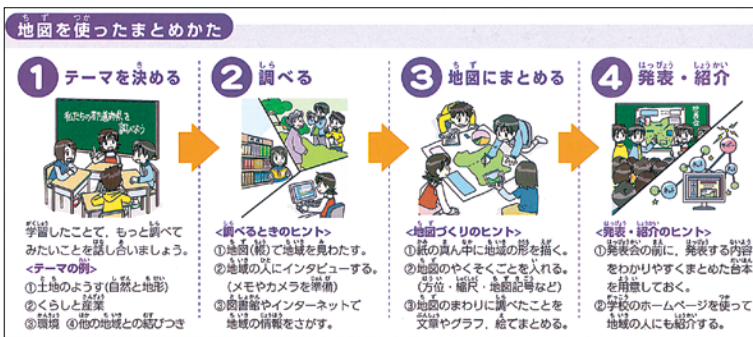


図3 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.12